

論文内容の要旨

報告番号		氏名	峯 正志
Association of Visual Acuity and Cognitive Impairment in Older Individuals: Fujiwara-kyo Eye Study Masashi Mine, Kimie Miyata ¹ , Masayuki Morikawa, Tomo Nishi, Nozomi Okamoto, Ryo Kawasaki, Hidetoshi Yamashita, Norio Kurumatani, Nahoko Ogata BioResearch Open Access. 5(1): 228-234, 2016 (和訳) 高齢者における視機能と認知機能障害の関連: 藤原京アイスタディより			

論文内容の要旨

【目的】 認知機能と視機能は高齢者の QOL を決定する重要な因子である。以前より認知機能低下と視機能低下が関係することが示唆されている。今回、私たちは大規模疫学調査にて高齢者の視機能と認知機能低下を調査し、その関連性を検討した。

【対象と方法】 榎原市を中心とした一般高齢住民(68 歳以上)を対象とした大規模疫学調査(藤原京スタディ)の対象者 2868 人に眼科検診(藤原京アイスタディ)を施行した。視力は左右眼の矯正視力を測定し、logMAR 変換して左右の良い方の視力が 0.2 より大きいものを視力低下ありとした。同時に行われた MMSE (Mini-Mental State Examination) で、23 点以下を認知機能低下とし、視力低下との関連性を検討した。

【結果】 2868 人のうち、視力検査と MMSE の双方を終えて、解析できた 2818 人(男性 1486 人、女性 1332 人)の年齢は 76.3 ± 4.8 (平均 \pm SD) 歳であった。左右で良い方の矯正視力の平均は -0.02 ± 0.13 (logMAR 視力) で 187 人(6.6%) が視力低下ありとされた。MMSE の平均は 27.3 ± 2.3 (平均 \pm SD) 点で 160 人(5.7%) が認知機能低下とされた。視力低下と認知機能低下の割合はどちらも年齢が高くなるにつれて増加し、視力と MMSE の数値には有意な関連がみられた ($r = -0.10$, $P < 0.001$)。年齢、性別、教育歴を調整して解析を行った結果、視力低下があると、視力低下が無い場合に比べて認知機能低下のリスクは 2.4 倍であった (Odds ratio 2.4, 95%CI 1.5-3.8, $P < 0.001$)。

【結論】 良い視力を保つことで、認知機能低下のリスクを低下させる可能性が示唆された。